

大地の声



第15回通常総代会を開催しました。

詳細は2～4ページをご覧ください。



第15回 通常総代会

6月24日、柏市民文化会館で第15回通常総代会を開催し、本人出席140名、委任状出席は1名、議決権行使書出席599名、合わせて740名（総代数758名）が出席しました。

4年振りに従来通りの実出席となった総代会開催にあたり、高橋一雄代表理事組合長がこの度の不祥事について陳謝し、さらに「厳しい環境の中ではありますが、基本方針に基づいた事業を展開し、皆さまの負託に応えてまいります。」と挨拶しました。

その後、議長に柏地区の鈴木哲氏を選任し、提案された6議案と附帯決議が賛成多数で承認されると共に、報告事項が報告されました。



なお、第6号議案（役員を選任）の承認により2名が理事に選任され、その後の理事会・監事会で新役員体制の運営がスタートしました。

理事

常務理事



渡邊 亮
(野田地区)



高橋 敏行

◆組合員表彰◆

J A ちば東葛 蔬菜組合岡田支部

前支部長 大山 勝也 氏

J A ちば東葛 申告部会風早支部

前支部長 広瀬 徹雄 氏

J A ちば東葛 川間園芸部

前部長 栗原 義信 氏

J A ちば東葛 西船地区青壮年部

前部長 飯塚 和之 氏



写真左より
高橋組合長、大山さん、広瀬さん、栗原さん、飯塚さん

◆提出議案◆

第1号議案

定款の一部変更について

第2号議案

定款附属書総代選挙規定の一部変更について

第3号議案

令和4年度事業報告および剰余金処分案の承認について

第4号議案

令和5年度事業計画設定について

第5号議案

令和5年度における理事及び監事の報酬について

第6号議案

役員の実任について

◆報告事項◆

1. 貸借対照表・損益計算書・注記表及び附属明細書の報告について

2. 第5次中期経営計画令和4年度取り組み状況について

3. SDGs達成に向けた取り組みについて

4. 「JAバンク基本方針」の変更について



相談・資産管理事業

確定申告の相談やインボイス対策研修会などの支援を行いました。また、相談、資産活用等の様々なご相談に対応いたしました。

令和4年度 主な事業活動

指導経済事業

農福連携や職業紹介など、継続的に働き手の確保に取り組みました。また、職員間の連携と人材育成に取り組み、生産者に有益な情報の提供と的確な営農指導により、生産拡大とコスト削減に取り組みました。

信用事業

〈貯金〉組合員・利用者の方のお役に立てるキャンペーンなど利用者普及拡大に取り組みました。
〈貸出〉各部門と連携を図り、農業資金の普及拡大以外に住宅関連・教育資金など組合員・利用者に寄りそった幅広いサービスを提供しました。

令和4年度は価格高騰に対する支援を求めため、管内各市へ要望書を提出しました。また、制限がある中、皆さまの安全を確保しながら直売会、農業まつり、くらしの活動などを実施し、組合員交流・地域交流を図り、地域農業の理解促進と振興に取り組みました。

共済事業

「一人ひとりに寄り添った安心と満足の提供」と「持続可能なJA経営基盤の確立・強化」を目指し、次世代・次々世代層との関係強化に取り組みました。また、JAの総合事業を活かし、組合員・利用者の方の多様なリスクに対する最適な提案活動を実施しました。

令和4年度 JAちば東葛 実績報告

令和4年度 貸借対照表

(令和5年3月31日現在)

(単位：千円)

資産の部	
科 目	金 額
1 信用事業資産	257,444,805
2 共済事業資産	12,342
3 経済事業資産	709,671
4 雑資産	325,583
5 固定資産	8,673,160
6 外部出資	11,706,339
7 繰延税金資産	287,059
資産の部合計	279,158,962
負債の部	
科 目	金 額
1 信用事業負債	258,610,067
2 共済事業負債	1,488,764
3 経済事業負債	252,686
4 雑負債	440,666
5 諸引当金	772,830
6 再評価に係る繰延税金負債	964,152
負債の部合計	262,529,167
純資産の部	
科 目	金 額
1 組合員資本	14,067,302
(1)出資金	1,820,016
(2)資本準備金	636,662
(3)利益剰余金	11,629,921
(4)処分未済持分	▲ 19,297
2 評価・換算差額等	2,562,492
(1)その他有価証券評価差額金	51,297
(2)土地再評価差額金	2,511,195
純資産の部合計	16,629,795
負債及び純資産の部合計	279,158,962

剰余金処分計算書 注記

- 出資配当金は年1.00%の割合です。
- 事業分量配当金は、組合員の次の取引に対して行います。
肥料価格高騰対策を含めまして、購買品利用高に対して2.50%、園芸販売高に対して0.065%、米出荷に対して1俵200円、乳代に対して1kg 0.10円の割合です。
- 次期繰越剰余金には、教育、生活、文化改善事業の費用に充てるための繰越金額24,000,000円が含まれています。

令和4年度 損益計算書

(令和4年4月1日～令和5年3月31日まで)

(単位：千円)

科 目	金 額	
1 事業総利益	3,075,814	
内 訳	信用事業総利益	1,782,625
	共済事業総利益	834,314
	購買事業総利益	185,652
	販売事業総利益	102,135
	保管事業総利益	3,340
	農産物直売所事業総利益	45,500
	利用事業総利益	2,891
	宅地等供給事業総利益	153,811
	アンテナショップ事業総利益	3,339
指導事業収支差額	▲ 37,797	
2 事業管理費	2,942,821	
3 事業利益(1-2)	132,992	
4 事業外収益	294,545	
5 事業外費用	39,850	
6 経常利益(3+4-5)	387,688	
7 特別利益	2,614	
8 特別損失	3,780	
9 税引前当期利益(6+7-8)	386,522	
10 法人税等合計	▲ 74,242	
11 当期剰余金(9-10)	460,765	
12 当期首繰越剰余金	806,902	
13 当期末処分剰余金	1,267,667	

令和4年度 剰余金処分計算書

(単位：円)

1 当期末処分剰余金		1,267,667,256
2 剰余金処分量		460,726,044
(1) 利益準備金	100,000,000	
(2) 任意積立金	300,000,000	
① 経営基盤強化積立金	100,000,000	
② 施設整備等積立金	200,000,000	
(3) 出資配当金	17,962,075	
(4) 事業分量配当金	42,763,969	
3 次期繰越剰余金		806,941,212

黄金色に実りました—大規模営農組織協議会



5月中旬、野田市内で麦の収穫が始まりました。
県内最大産地の野田市で麦を栽培するのは、大規模営農組織協議会（野田市東部営農組合・農事組合法人小山営農組合・(株)野田自然共生ファーム・農事組合法人きまがせ）の生産者。例年より収穫時期が1週間ほど早まりましたが、黄金色に実った大麦と小麦を5月中旬から6月下旬にかけて刈り取りました。



一面に広がる麦畑

刈り取った麦は、大麦は麦茶として、小麦はうどん等の原料として加工されます。

農業の可能性を話し合いました—野田地区青壮年部



ウクライナの避難民支援チャリティーコンサートも行いました

野田地区青壮年部は5月25日、野田市近隣の生産者と情報交換・交流会を開催しました。

この日は、まず茨城県で葉物野菜を中心に栽培する生産者から栽培状況や販路、展望などの話を伺ったあと、野田市内で栽培する作物や出荷について説明。それぞれの特徴などを交えながら情報交換を行いました。

その後の交流会では、生産者のほか、農業関連会社など多くの方が参加し、これからの農業の可能性を話し合いました。

協同組合について話し合いました—JA



ラオス人民民主共和国のサルムサイ・コンマシット副首相兼外務大臣は5月27日、野田市内の圃場や野田地区経済センターの施設を見学しました。

サルムサイ副首相は、駐日ラオス大使や（一財）アジア農業協同組合振興機関（IDACA）職員らと福田地区の荒木大輔さんの圃場を訪問。旬の枝豆やパクチーの畑を回り、管理方法などの説明を受けました。その後、一行は同センターへ移動し、施設の見学と意見交換を行いました。

今回の訪問でJAは、ラオスが抱える課題を共有した上で、農業発展に繋がるように農協組織についてのメリットなどを伝えました。



精米施設を訪れたサルムサイ副首相（写真中央）

産地間で情報共有—JA ちば東葛蔬菜組合岡田支部



遠郷支部長の圃場で意見交換

情報交換がされました。

6月6日、春人参の栽培管理などを学ぶため、JA 遠州中央（静岡県）の生産者と職員計4名が視察に訪れました。

まず一行は、JA ちば東葛蔬菜組合岡田支部遠郷功支部長の圃場を訪れ、春人参の特徴など説明を受けた後、集出荷場へ移動し出荷の様子を見学しました。

視察した皆さんからは、土地や作物の特徴、栽培や管理の方法、集出荷場の運営方法など多くの質問があり、活発な情

出荷最盛期に向けて統一—JA ちば東葛ふたば園芸連絡協議会葉生姜部会



市場関係者と協議する様子

JA ちば東葛ふたば園芸連絡協議会葉生姜部会は6月10日、土支店で葉生姜の査定会を行い、生産者、東葛飾農業事務所、市場関係者など15名が参加しました。

査定会では、市場情勢や主要産地の動向が報告されたあと、JA職員が出荷時の注意事項などの説明をしました。その後、参加者は並べられた葉生姜を手に取り、今年の出来映えや規格を確認・統一しました。

査定会実施にあたり、日暮光次部会長は「まだ価格高騰の影響がある。市場には有利販売に努めてほしい。」と挨拶しました。



日暮部会長の圃場で撮影する様子

同部会では、父の日に向け6月11日から共撰出荷が始まり9月下旬まで続きます。また、本格出荷に先駆け、5月中旬に日暮部会長の圃場で「あなたの代わりに見てきます！リア突WEST」の撮影が行われました。出演者は、柏市で作られる葉生姜について学んだあと、生姜専門店のオーナー直伝の生姜料理を作りました。

この日撮影された内容は6月25日に全国区で放送され、柏産葉生姜の魅力を知っていただくきっかけになりました。

消費者にPR—JA、西船地区



【地場野菜即売会】

船橋産の農畜水産物が集まる「地場野菜即売会（船橋市農水産祭実行委員会主催）」が6月17日に開催され、船橋市園芸協会や4Hクラブなど各団体に所属するメンバーが参加しました。

東武鉄道船橋駅コンコースの特設コーナーでは、市内の野菜や花き、水産加工品などが並びました。参加者は、説明をしながら対面販売し、消費者に向けて地元野菜の美味しさと千産千消の大切さを伝えました。



賑わう会場

【県産農産物応援 直売所キャンペーン】



抽選会の様子

6月17日、農産物直売所「ふなっこ畑」で県産農産物応援直売所キャンペーンイベントが行われました。ふなっこ畑で2,000円以上購入した方に県産の旬の野菜が当たるくじ引きや、子ども向けの枝豆収穫体験を行うなど、イベントは終始賑わいました。同イベントは、生産者応援と国消国産へ向けた取り組みとして、JAグループ千葉営農事業推進協議会とJA千葉中央会を中心に、県内JA直売所が連携し開催されました。今後も、春夏・秋冬の年2回、県内の直売所で開催される予定です。

旬の特産品がズラリ—柏地区女性部



なだろうで買い物を楽しむ一行

柏地区女性部は5月23日に親睦旅行を行い、23名が直売所と食を満喫するコースを巡りました。

生憎のお天気でしたが、一行はJA全農いばらき直営の「ポケットファームどきどき茨城町店」を訪ねた後、那珂湊へ移動し海の幸を堪能しました。さらに、JAほこたのファーマーズマーケット「なだろう」を見学した後、「フォレストパークメロンの森」で旬のメロン狩りを楽しみました。

それぞれの直売所で、新鮮野菜や地場産の加工品が並ぶ店内を見学し、新たな発見がある親睦旅行になりました。

新たなアレンジに挑戦！—西船地区女性部



西船地区女性部は5月24日、西船地区多目的ホールでフラワーアレンジメントクラブ第1回講座を行い、8名が参加しました。

今回も(株)花源の田島直人氏を講師に迎え、種類によって異なる質感の植物を合わせて表現する構造的アレンジに挑戦。淡いピンクや黄色・白などの初夏らしい色合いの花材を使い、可愛らしく優しい雰囲気のアレンジメントを仕上げました。

皆さん回を重ねるたびにスキルアップしていて、今回も花の個性を活かしながらも手際よく完成させました。



綺麗に仕上がりました

良質な睡眠を！—西船地区女性部



睡眠の重要性を学びました

西船地区女性部は5月30日、西船地区多目的ホールで女性大学を開校し、7名が参加しました。

第1回目となる今回は、睡眠健康指導士の資格を持つ東洋羽毛工業(株)の新矢昭吾氏を講師に、「人はなぜ眠るのか」をテーマに睡眠セミナーを行いました。

睡眠の種類やリズム、身体に与える影響などを学び、改めて睡眠の重要性を考えるきっかけとなりました。

参加した方からも「セミナーを活かして、質の良い睡眠を取りたいです。まずは、同じ時刻に起床することから始めようと思います。」と、意欲的な声が聞かれました。

夏仕様の菜園作り—柏地区女性部



柏地区女性部は6月6日、ガーデニング講座を行い30名が参加しました。エル・パテオの藪崎崇仁氏の指導のもと、「花も野菜も！プランターで作る夏のミニポタジェ！」と題し、それぞれの植物の役割を学びながら寄せ植えしました。

“ポタジェ”とはフランス語で菜園を意味します。今回は、ミニトマトやバジルなどの野菜とハイビスカスやマリーゴールドなどの植物計7種類を、小さな菜園のように作り上げました。



真剣に説明を聞く参加者

お酢を使ったステキ料理—野田地区女性部



新たな発見がある講座でした

野田地区女性部は6月8日、野田地区多目的ホール調理室で女性部短期大学第2回講座を行いました。この日は「エコープのお酢を使ったお料理」と題し、大興産業(株)の猪原大介氏を講師に18名が参加しました。

お酢の働きを学びながら、エコープ商品の五倍酢やらっきょう酢などを使い、全4品を調理。新商品のほめられ黒酢を使った「鶏の黒酢照り焼き」は特に好評で、簡単なのに美味しい

と皆さん絶賛でした。

エコープのお酢は各センターでお取り寄せが可能です。お気軽にお問い合わせください。

営農情報

【水稲カメムシ防除について】



野田地区経済センター  田島 大

近年、カメムシ類の加害による斑点米が発生し、米の品質に影響が出ています。今回はカメムシ防除に適している薬剤を2つご紹介します。

スタークル豆つぶ



【特長】

- ・高い殺虫効果と斑点米抑制効果で効率的防除
- ・優れた浸透移行性により水面施用で防除
- ・収穫7日前まで使用可能

【上手な使い方】

出穂後3～7日後が
散布適期

●豆つぶとは？

10aあたりの散布量が250gと少量散布でありながら、豆つぶ製剤が水面上で崩壊して自己拡散することで有効成分が全面に、速やかに、且つ均一に広がります。

作物	適 応 害虫名	使用量 (10aあたり)	使用 時期	本剤の 使用回数	使用 方法
稲	ウンカ類 ツマグロ ヨコバイ	250g } 500g	収穫 7日 前まで	3回以内	散布
	カメムシ類	250g			

キラップ粒剤



【特長】

- ・近年問題となっている斑点米カメムシ類に対し高い防除効果を示します。特に、アカヒゲホソミドリカスミカメのようなカスミカメムシ類に卓効を示します。
- ・散布適期幅が広いので使用しやすい薬剤です。
- ・長い残効性を有しているため、安定した効果を示します。

【上手な使い方】

出穂10日前
～出穂期が散布適期

作物	適 応 害虫名	使用量 (10aあたり)	使用 時期	本剤の 使用回数	使用 方法
稲	ウンカ類 カメムシ類	3kg	収穫 14日 前まで	2回以内	湛水 散布

カメムシ防除を徹底してよりの一層品質を向上させましょう！

※使用前は必ず登録内容をご確認ください。